

1. 調査の目的（実施主体：文部科学省）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象

【中学校調査】中学校第3学年

3. 調査事項及び手法

1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

出題範囲は調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおり。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととします。出題形式については記述式の問題を一定割合で導入。

2) 質問紙調査（生徒質問紙）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施します。

本報告書においては上記を踏まえ、調査結果についての分析を項目ごとに行い今後の学校の教育活動に資する資料としたい。なお、本調査のデータは全国、大阪府分とも男女を合わせたものになっているが、本校第3学年生徒の男女比は1：3となっている。

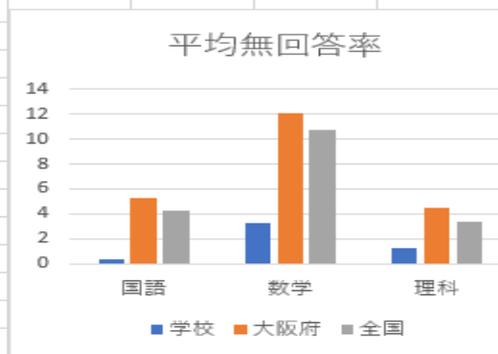
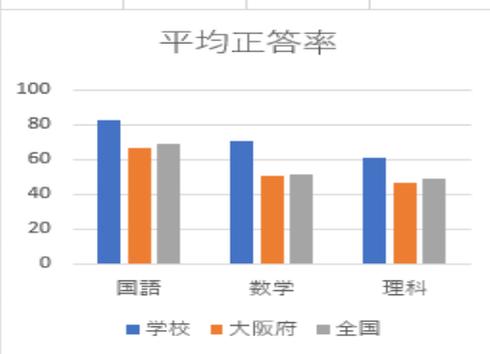
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

	平均正答率 (%)		
	国語	数学	理科
学校	83	71	61
大阪府	67	51	47
全国	69	51.4	49.3

※大阪府、全国は公立のデータ

	平均無回答率 (%)		
	国語	数学	理科
学校	0.3	3.3	1.2
大阪府	5.3	12.1	4.5
全国	4.3	10.8	3.4

※大阪府、全国は公立のデータ

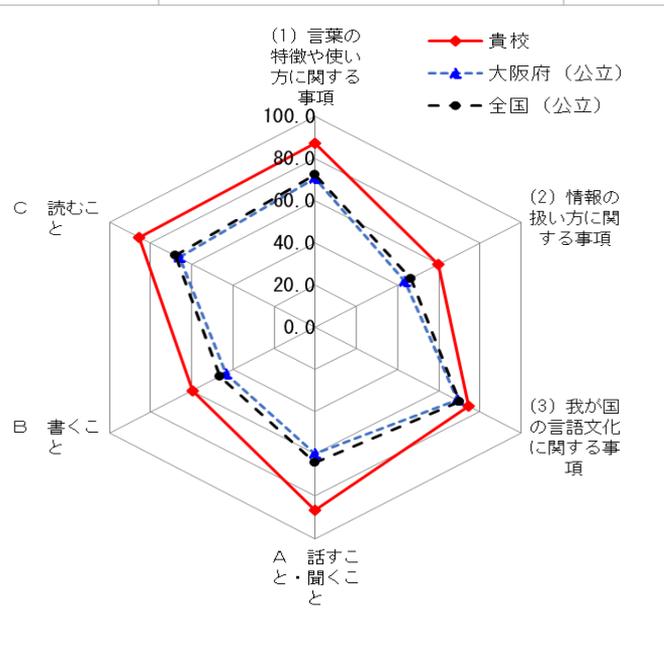


結果分析

- 平均正答率は国語において、全国平均より14ポイント、数学で約20ポイント、理科で約12ポイント高い状況であった。令和3年度においては国語が約20ポイント、数学が約17ポイント高い状況であった。
- 平均無回答率は国語で0.3%（全国4.3%）、数学3.3%（全国10.8%）、理科1.2%（全国3.4%）であった。
- 昨年度に引き続き国語、数学に関しては全国平均を大幅に上回る結果となった。また昨年度は実施がなかった理科においても全国平均を大幅に上回る結果であった。数学と理科に関しては外国人教員が英語で教えるという形をとっているがそれにより理解力が下がるという傾向も現時点では見られず、順調に推移していると考えられる。
- 平均無回答率も3教科とも低い数値となっており、問題を解けないのすぐにあきらめるという傾向が見られず学習に積極的に取り組んでいる様子が見える結果となっている。

国語		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
分類	学校			大阪府	全国	
		全体	14	83	67	69.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	87.4	70.7	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	59.7	43.6	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	74.5	69.0	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	86.6	59.9	63.9
		B 書くこと	1	59.7	43.6	46.5
		C 読むこと	2	85.7	66.2	67.9

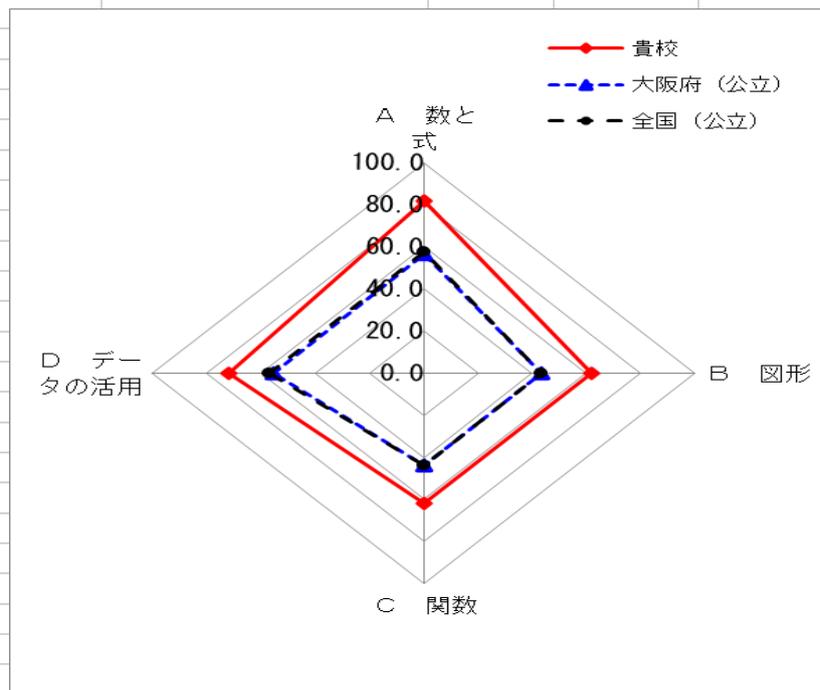
大阪府、全国は公立のデータ



国語結果分析

「言葉の特徴や使い方に関する事項」のうち、「論理の展開などに注意して聞く」、「話すこと・聞くこと」の正答率は全国平均を大きく上回った。一方、「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」設問の正答率は、全国平均を上回っているものの、他の設問と比べてその差は少なかった。特に、「我が国の言語文化に関する事項」では、古典を学ぶための様々な方法を知り、それをを用いて、身の回りで出会うことのできる古典作品等に触れる学習場面を増やしていく必要がある。

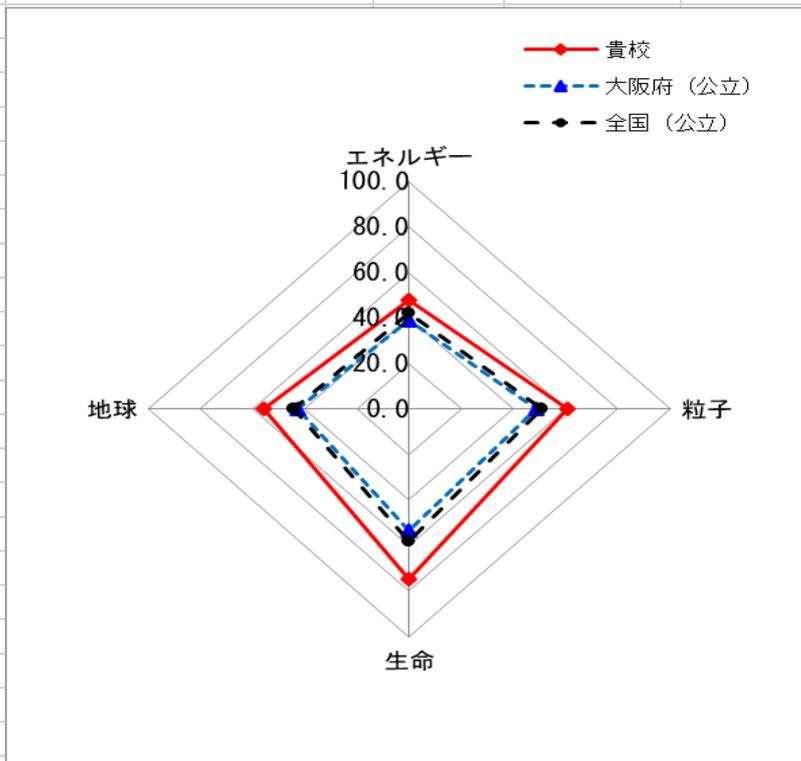
数学					
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		14	71	51	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	81.6	56.7	57.4
	B 図形	3	61.9	43.2	43.6
	C 関数	3	61.9	43.8	43.6
	D データの活用	3	71.9	55.4	57.1
評価の観点	知識・技能	9	79.8	59.3	59.9
	思考・判断・表現	5	55.3	35.4	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			



数学結果分析

「数と式」領域の「自然数を素数の積で表す」設問の正答率は全国平均を大きく上回った。一方、「データの活用」領域の「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」設問の正答率は、全国平均は上回っているものの、他の設問と比べてその差は少なくなった。特に「データの活用」領域では、自分の考えを記述したり、事柄が成り立つ理由を説明させる学習場面を増やしていく必要がある。

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		21	61	47	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	48.1	38.9	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	60.8	48.7	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	74.5	53.2	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	55.8	42.8	44.3
評価の観点	知識・技能	7	48.8	44.1	46.1
	思考・判断・表現	14	66.4	47.8	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			



理科結果分析

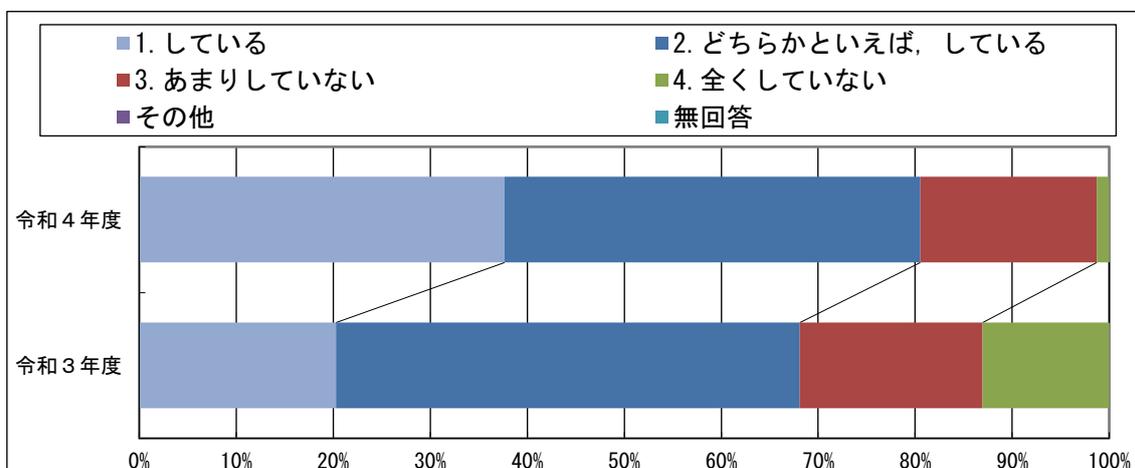
「生命」領域、「粒子」領域は全国平均より高く、特に思考・判断・表現に関する設問の正答率はかなり高い結果となった。これはアクティブ・ラーニング形式の授業を通じた思考・判断の力を育む授業や実験を多く取り入れたためと考えられるため、継続しながら更に生徒達の実情に合った取り組み・実践を進める。

一方、「エネルギー」領域の「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」や「日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する」の設問の正答率が芳しくなく「エネルギー」領域に関する事象の説明が適切にできるような取り組みを増やしながら基礎学力の定着に力を入れる必要がある。

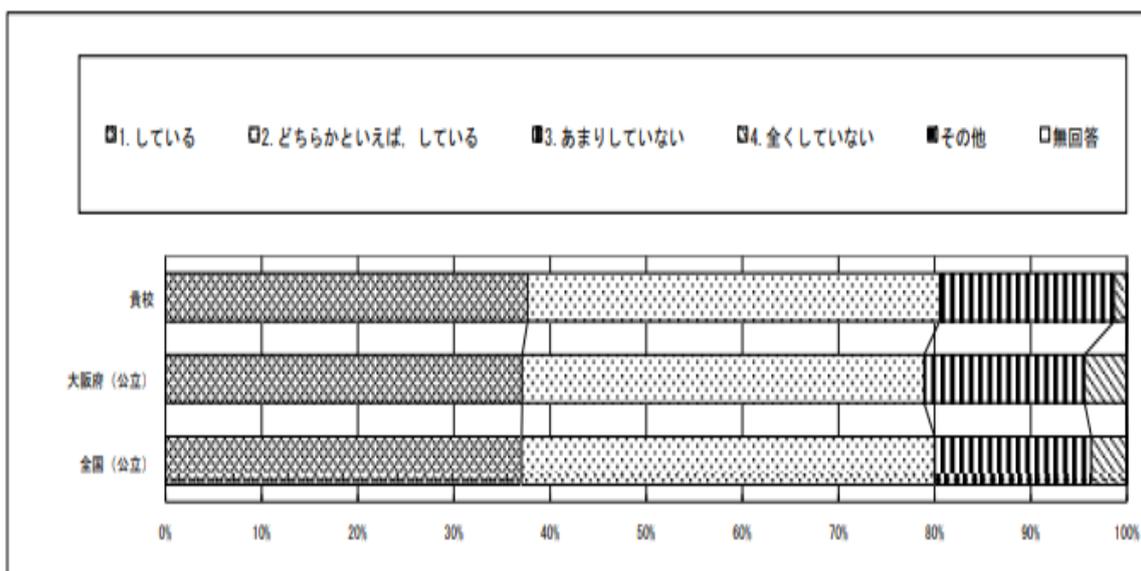
全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より

① 令和4年度および3年度の本校中学3年生の比較並びに、②全国、大阪府との比較
現況分析および所感は21ページから。

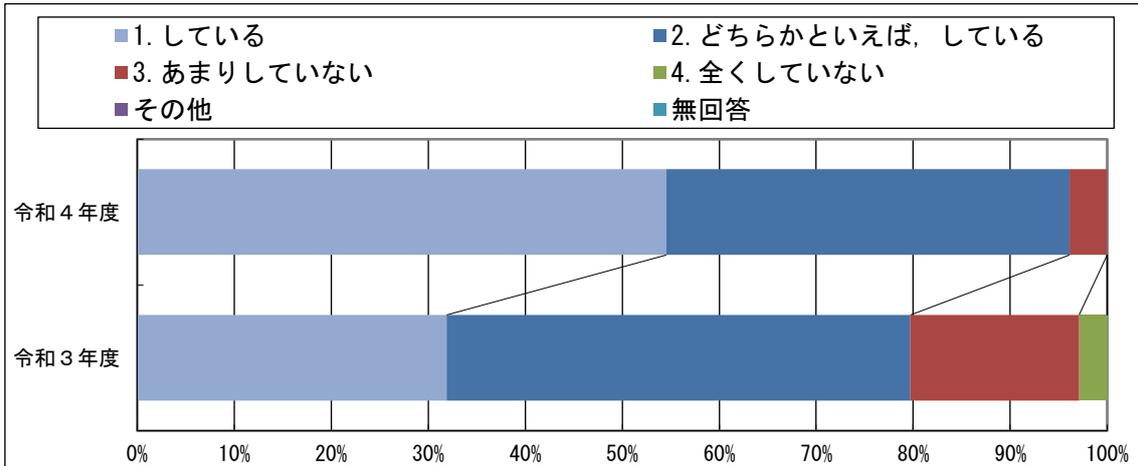
2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（令和4年、3年の中学3年生の比較）



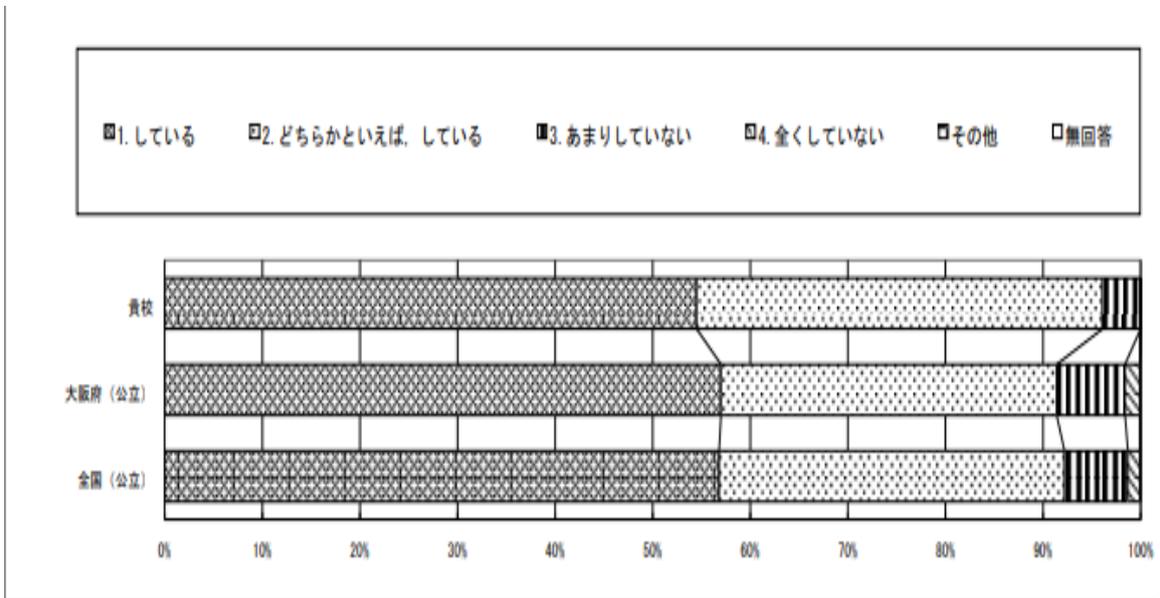
本校、大阪府、全国の比較



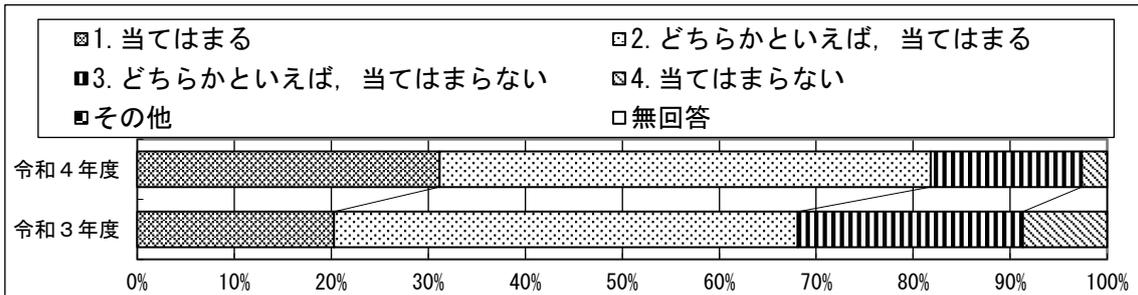
3. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



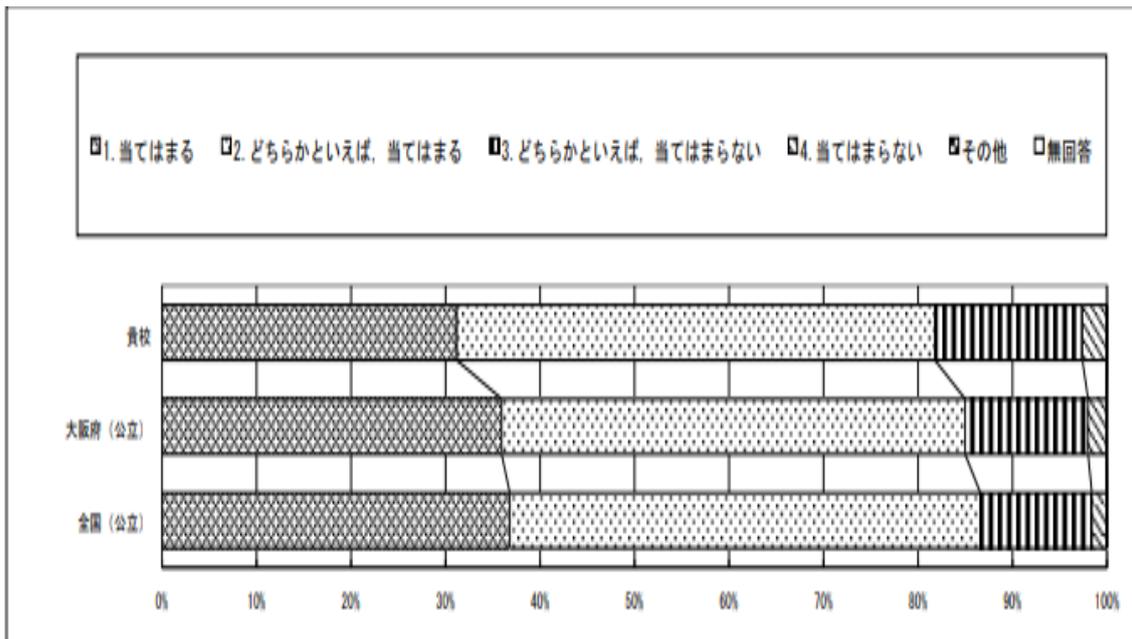
本校、大阪府、全国の比較



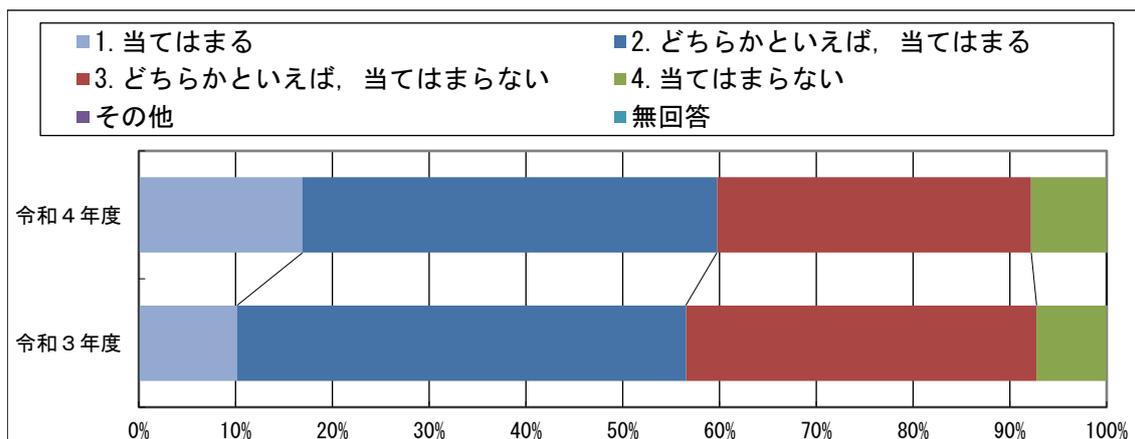
10. 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



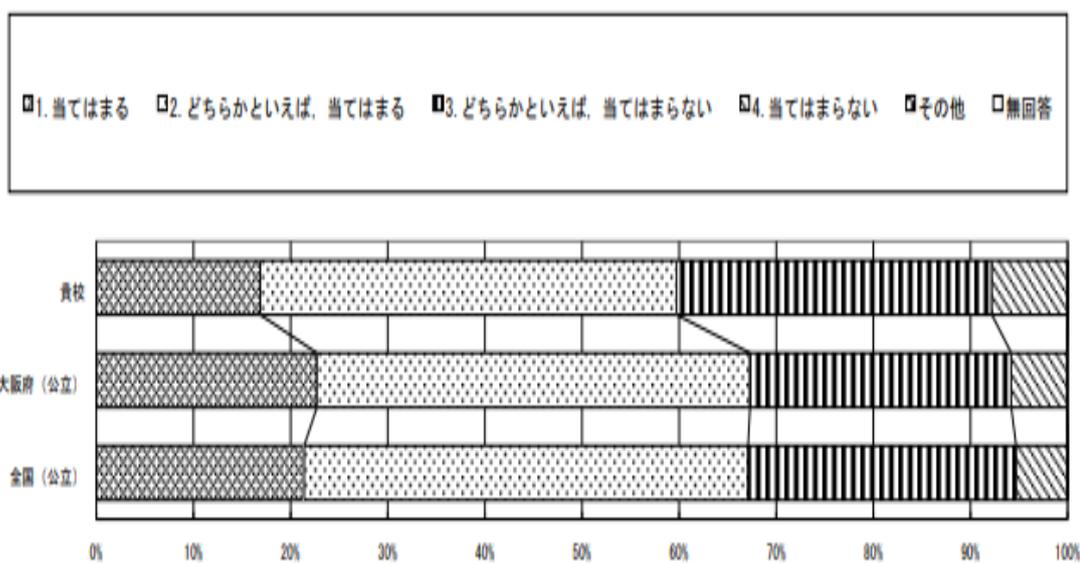
本校、大阪府、全国の比較



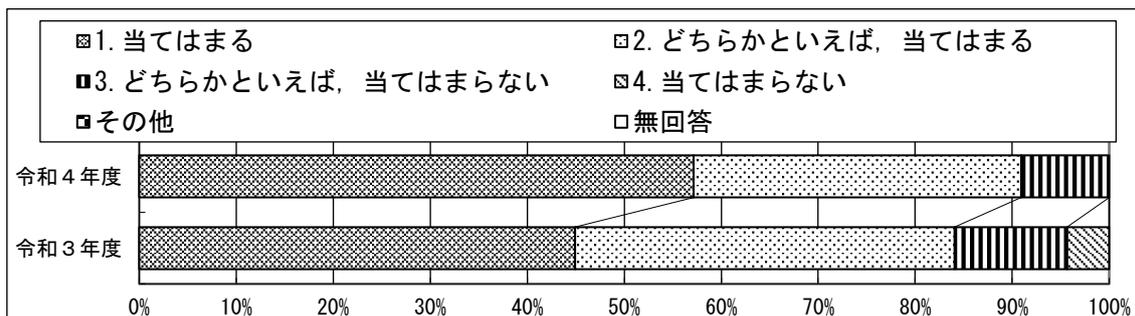
1 1. 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



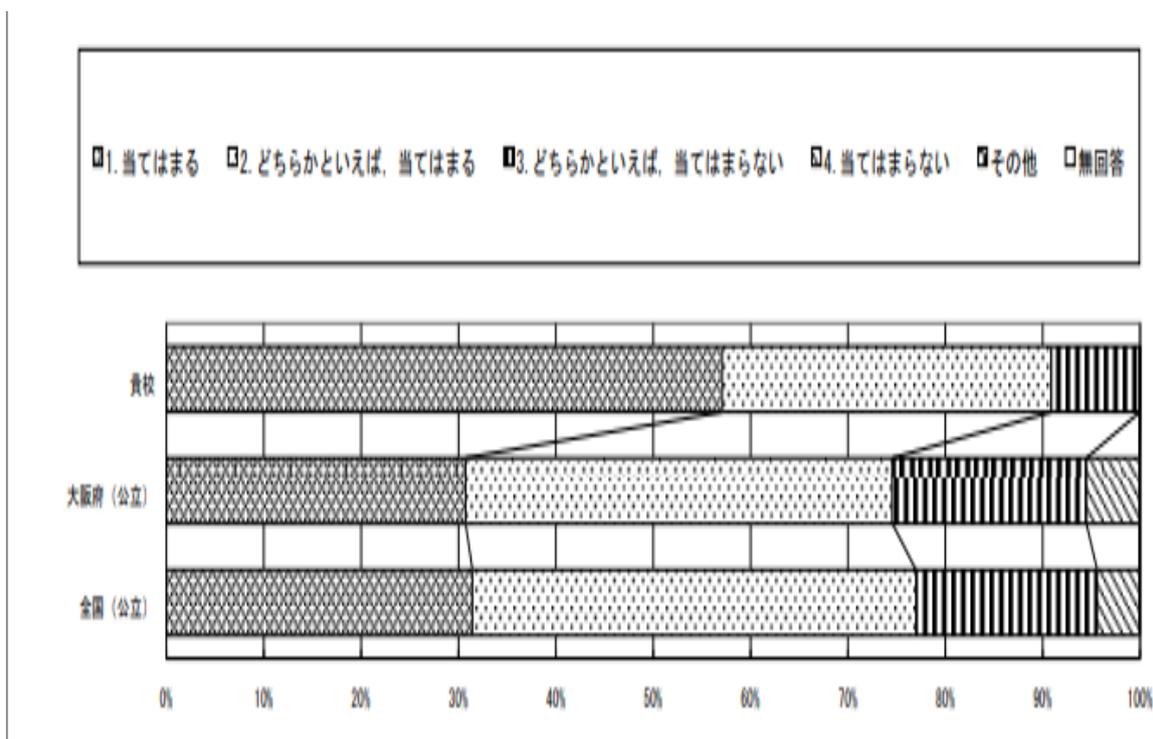
本校、大阪府、全国の比較



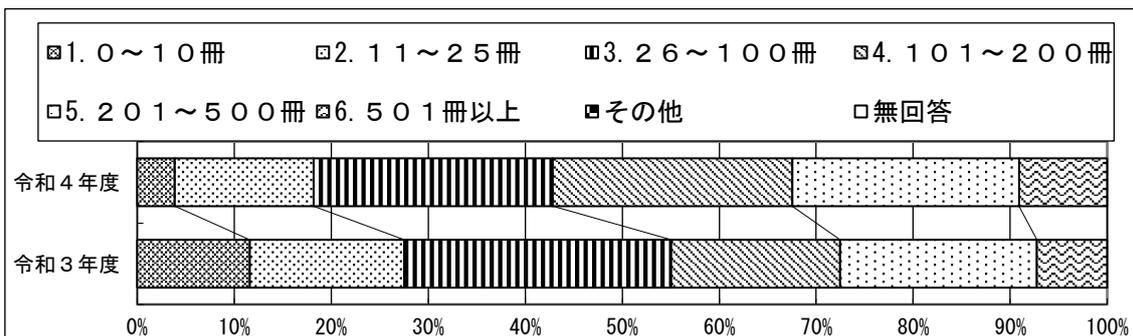
17. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか



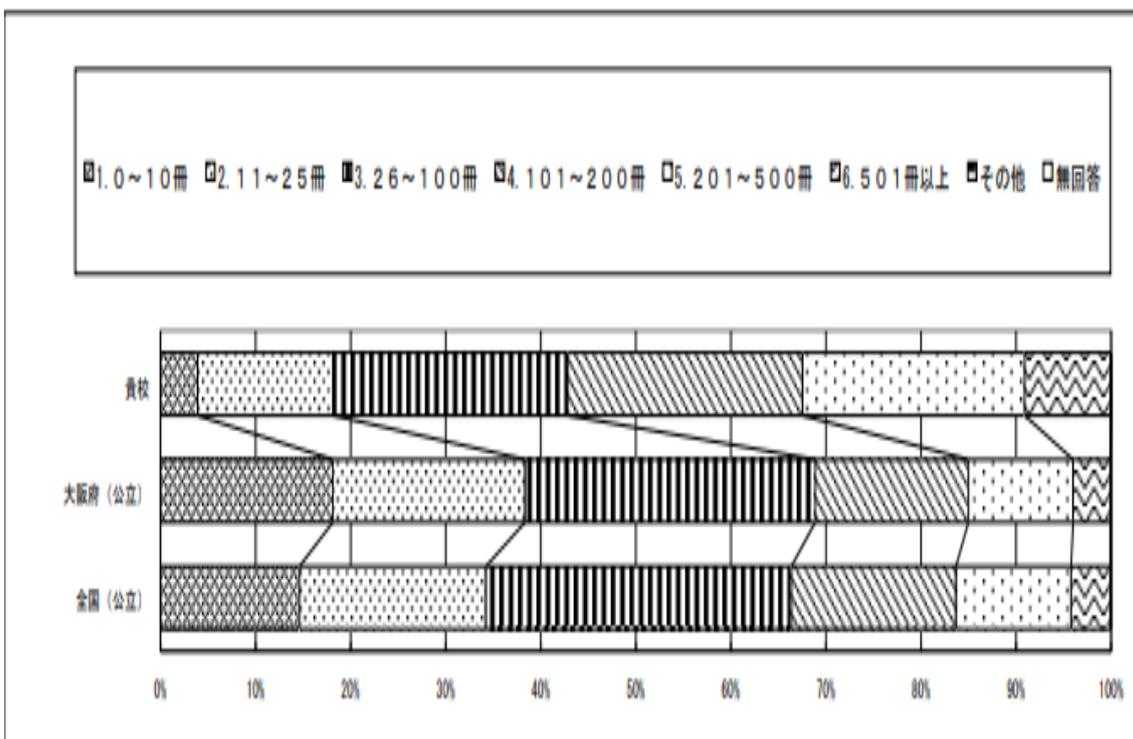
本校、大阪府、全国の比較



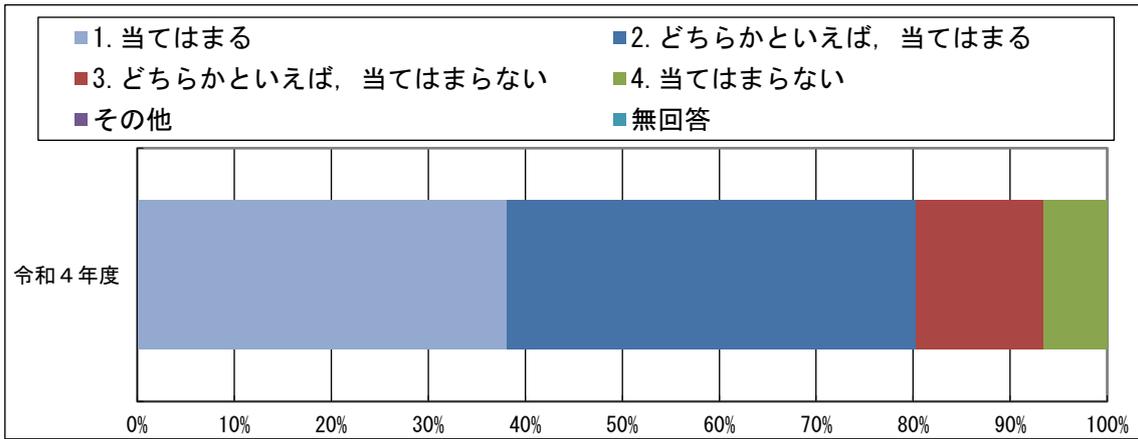
24. あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（一般の雑誌，新聞，教科書は除く）



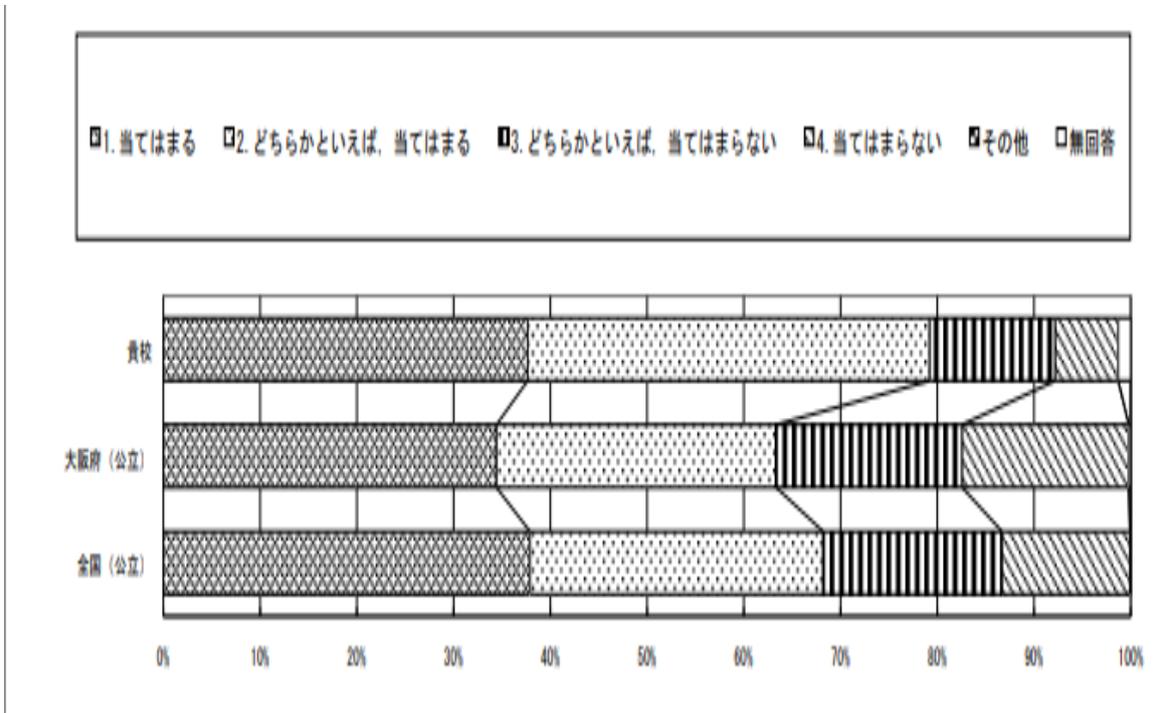
本校、大阪府、全国の比較



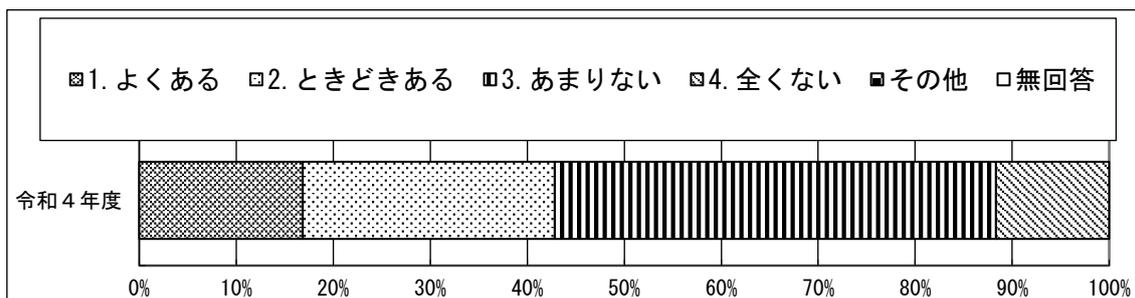
2.6. 読書は好きですか



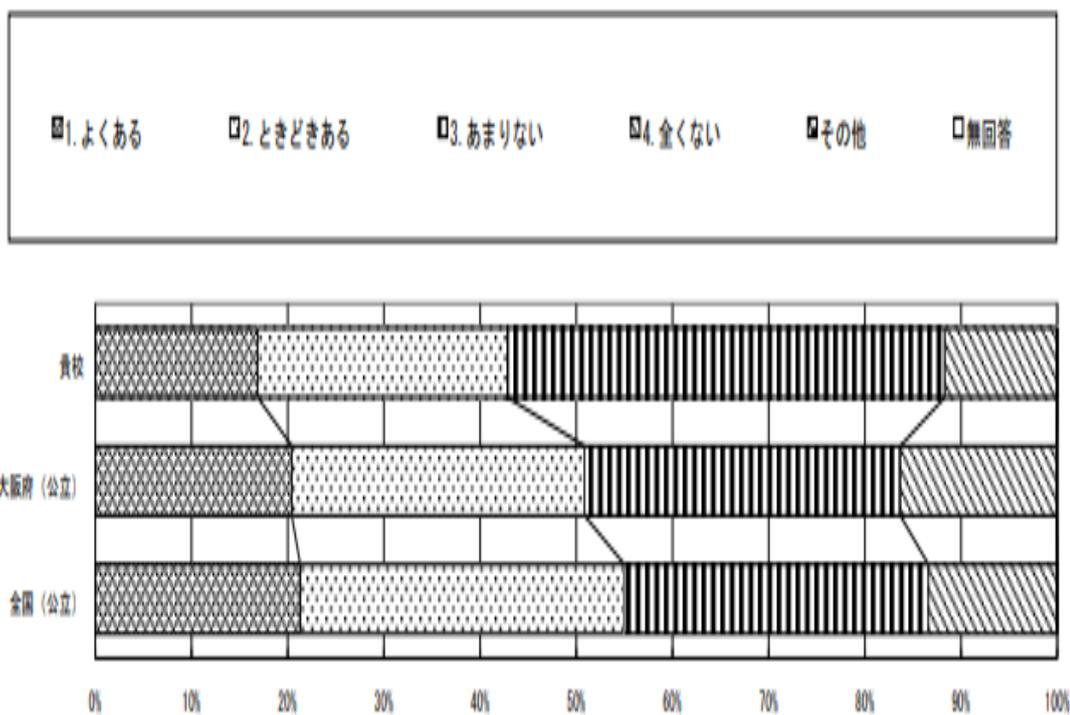
本校、大阪府、全国の比較



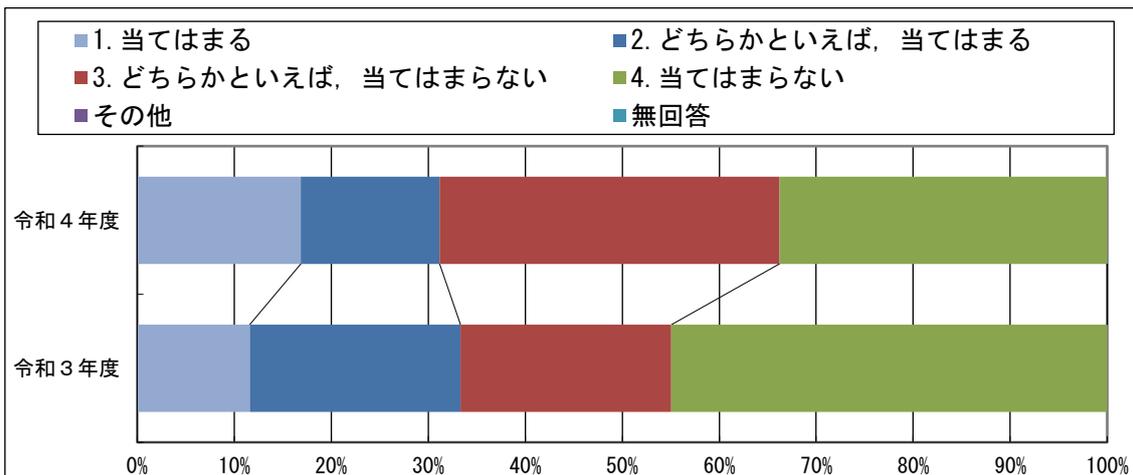
2.7. 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか



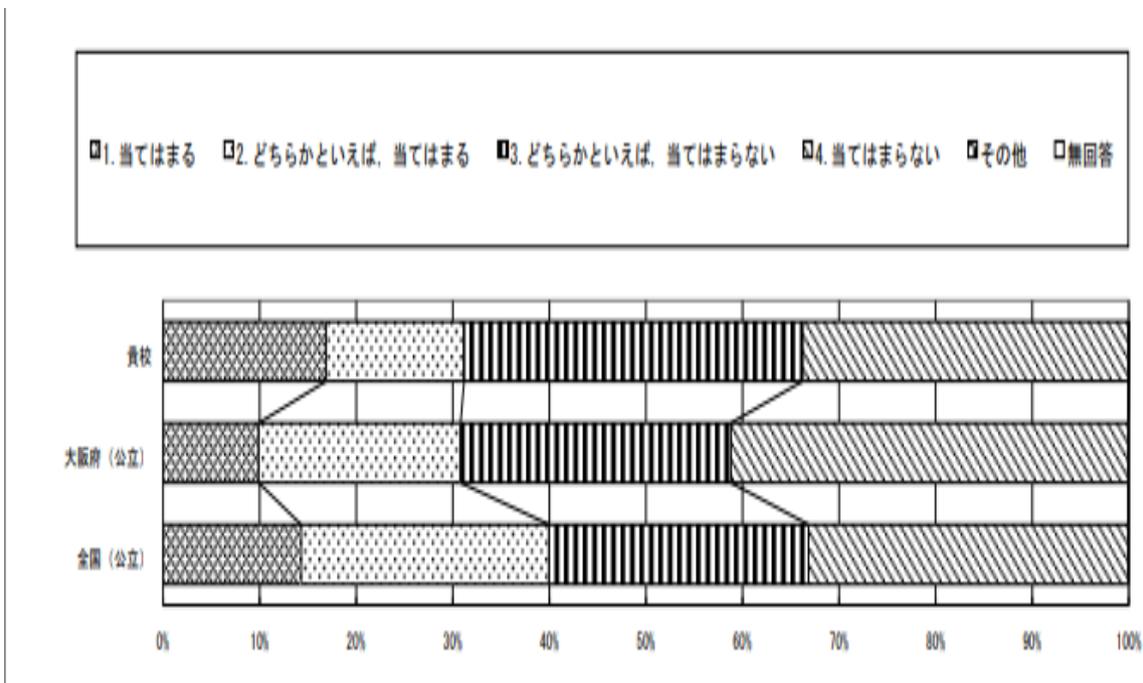
本校、大阪府、全国の比較



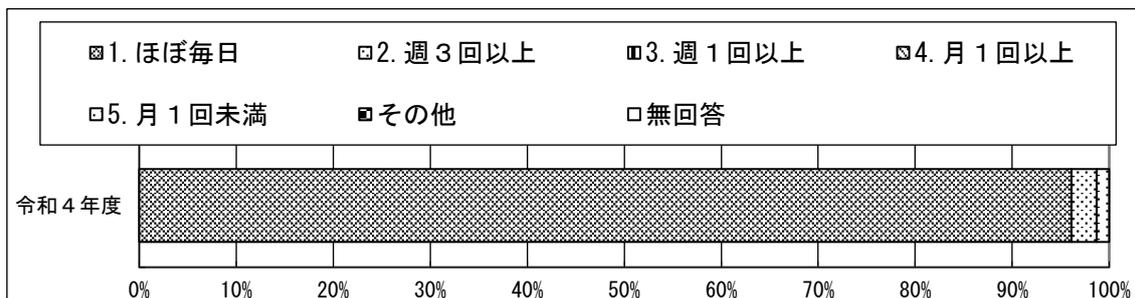
29. 今住んでいる地域の行事に参加していますか



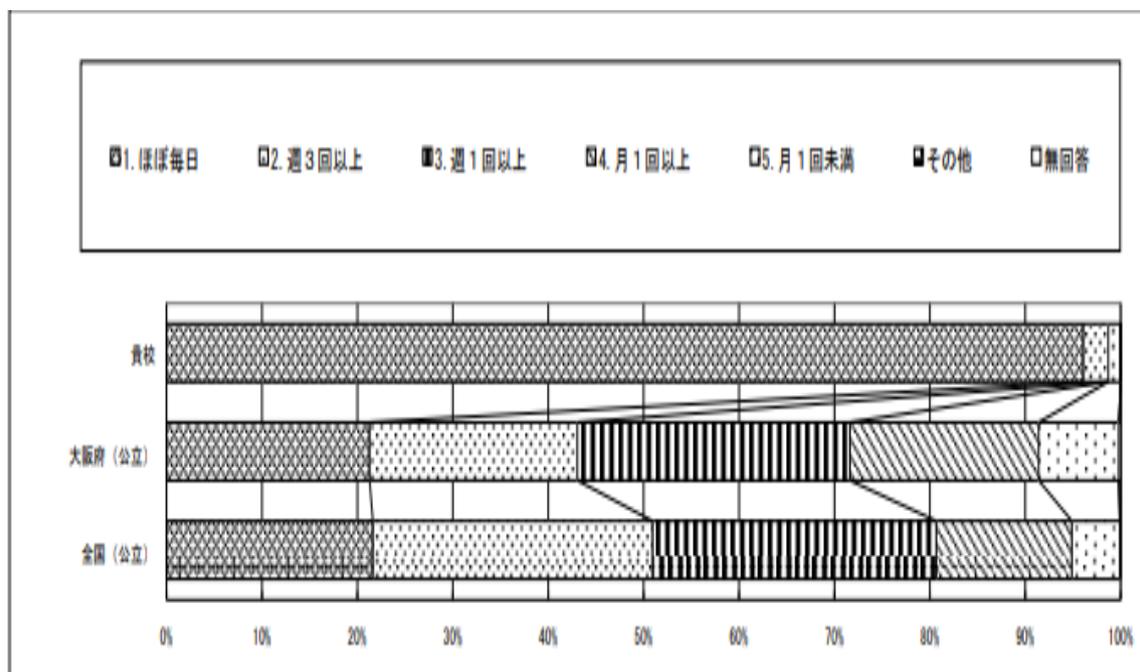
本校、大阪府、全国の比較



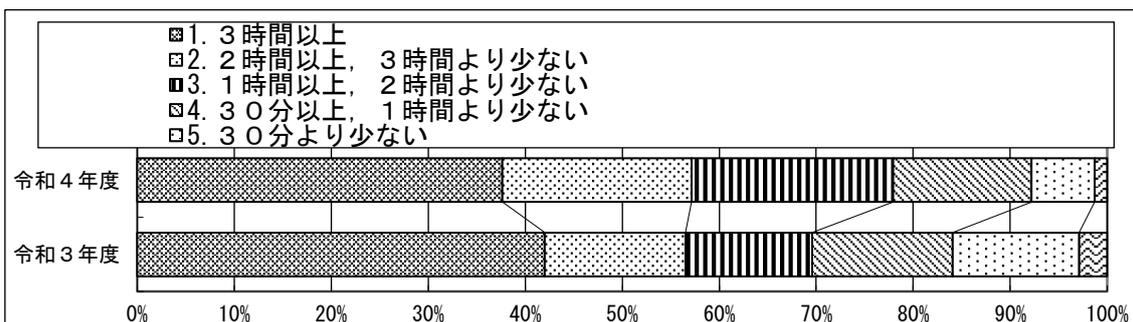
3 2. 1, 2 年生のときに受けた授業で, P C ・ タブレットなどの I C T 機器を, どの程度使用しましたか



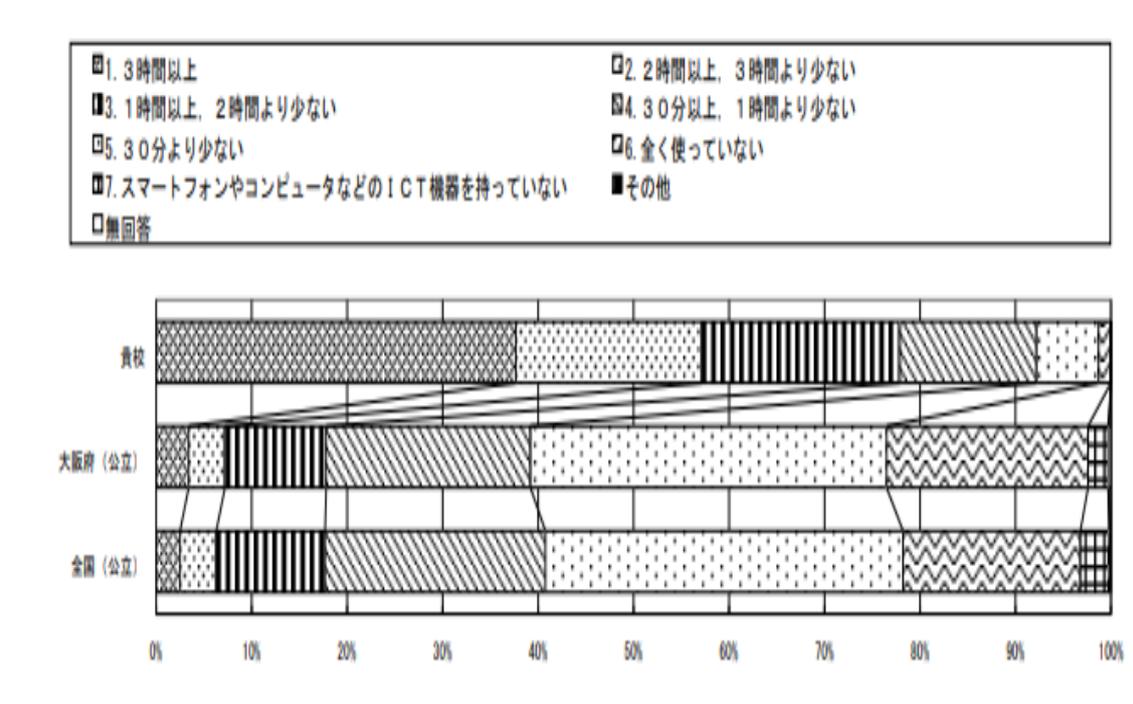
本校、大阪府、全国の比較



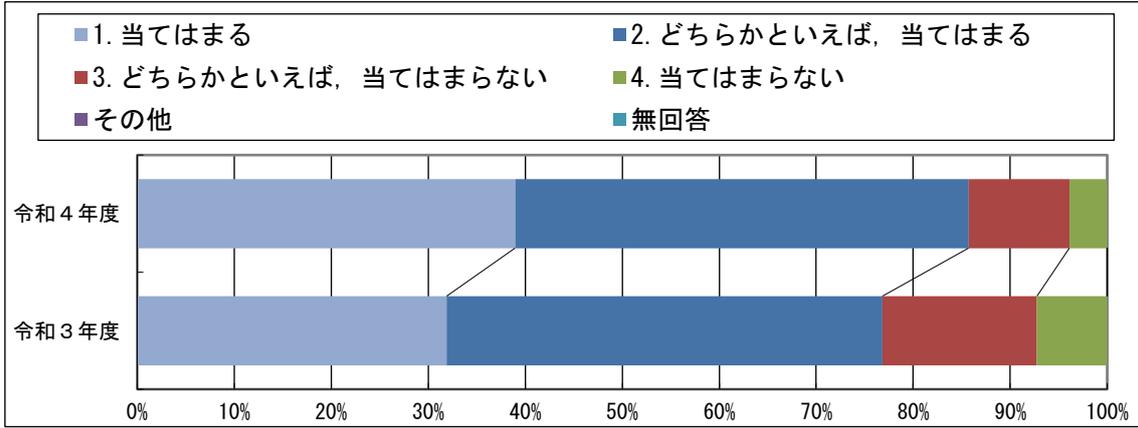
37. 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか



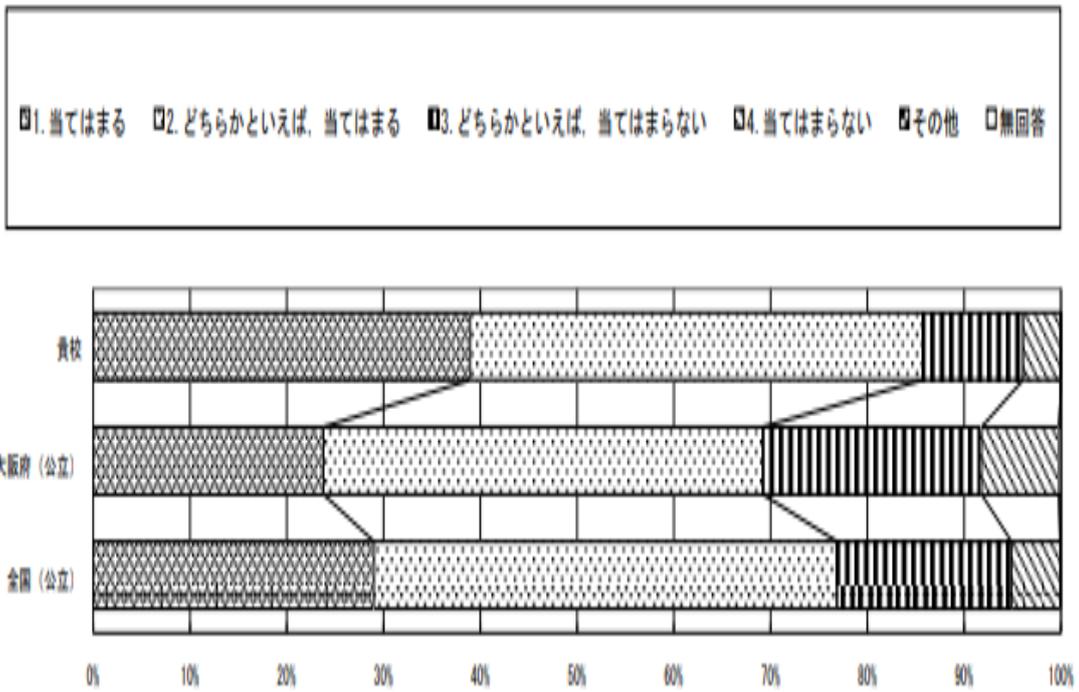
本校、大阪府、全国の比較



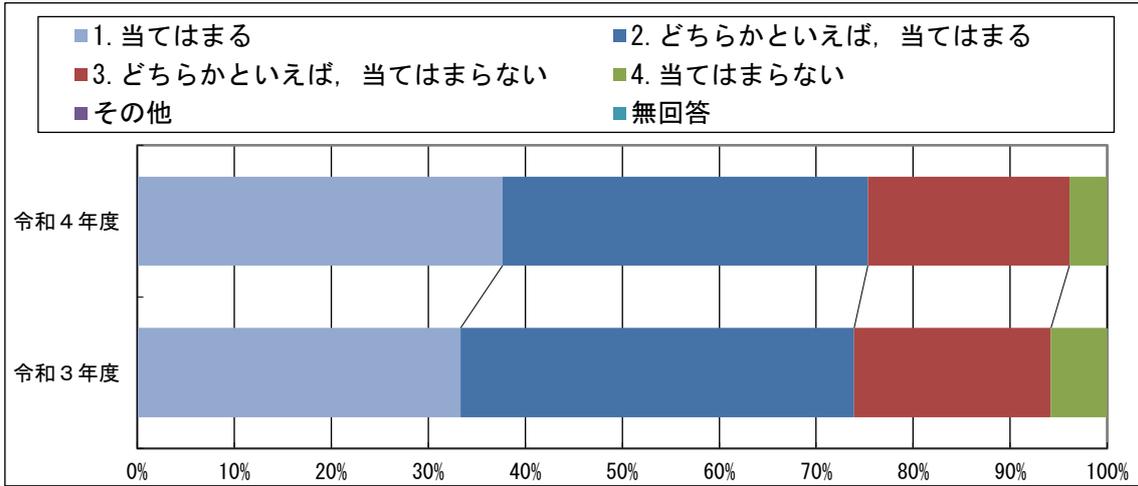
46. あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



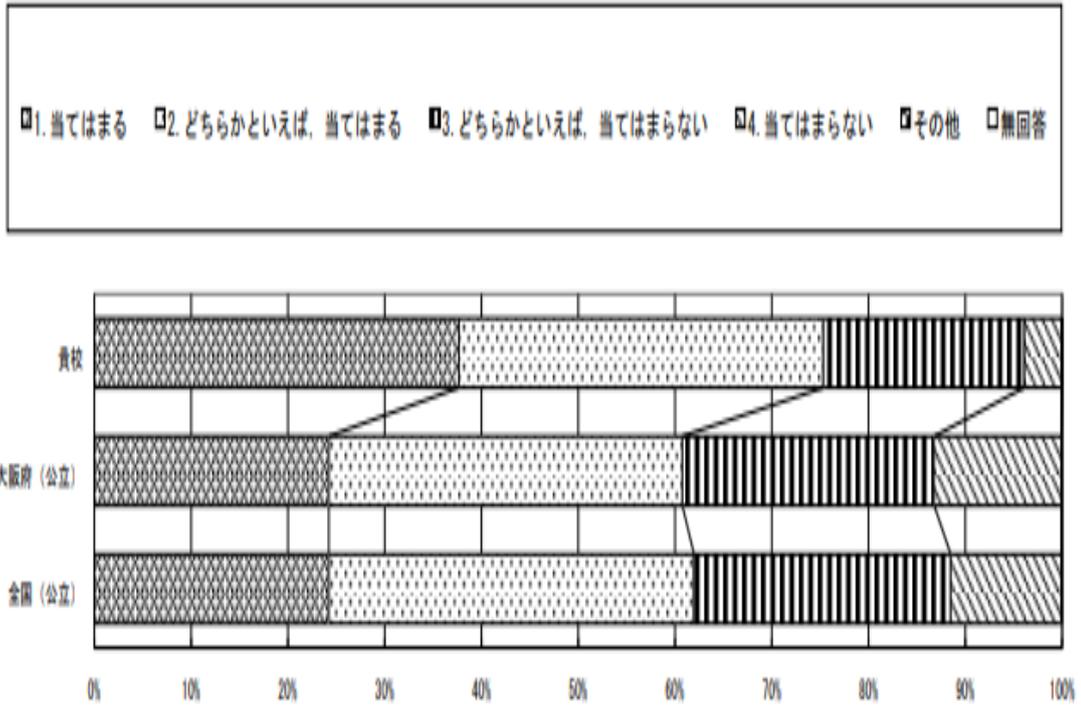
本校、大阪府、全国の比較



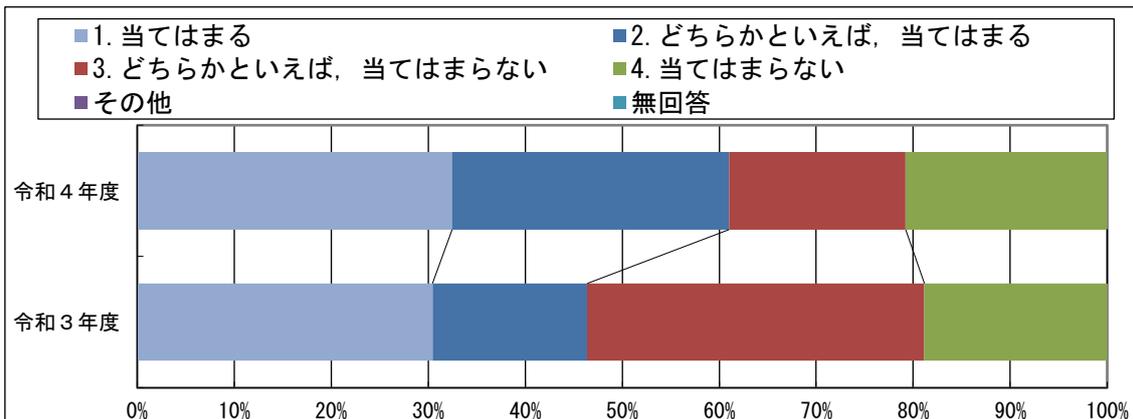
49. 国語の勉強は好きですか



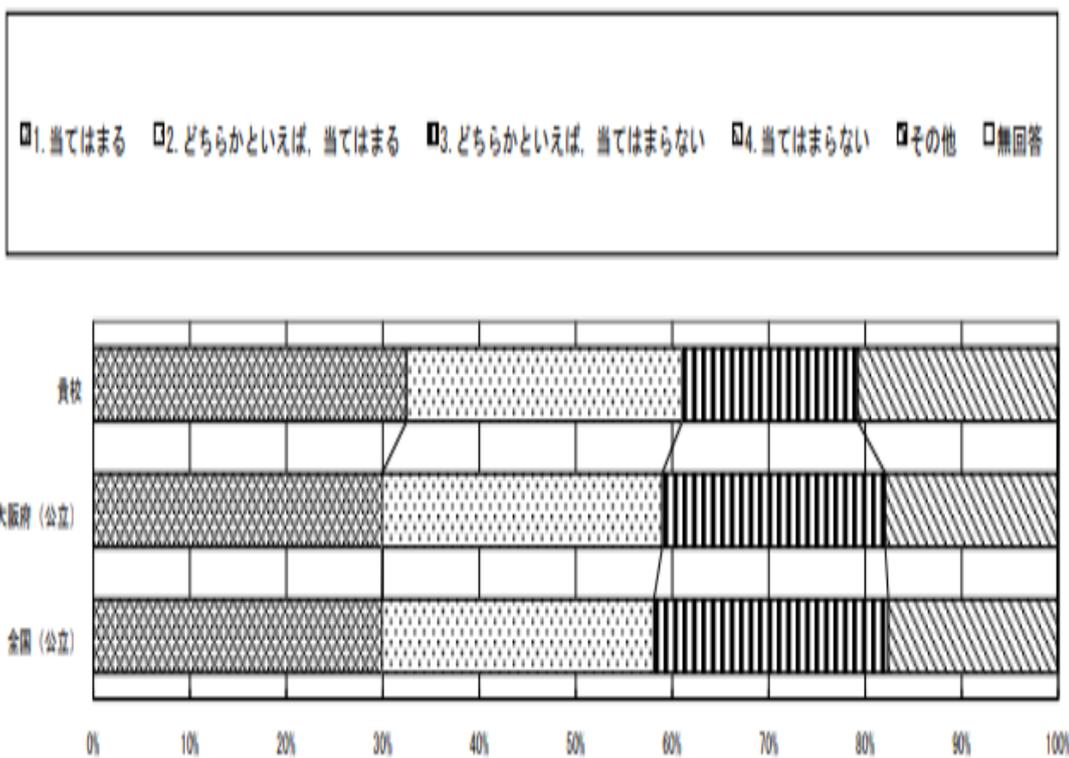
本校、大阪府、全国の比較



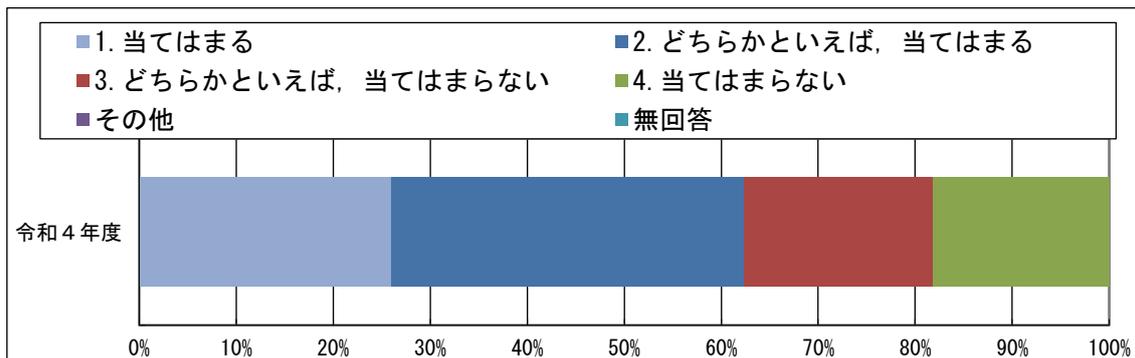
5.3. 数学の勉強は好きですか



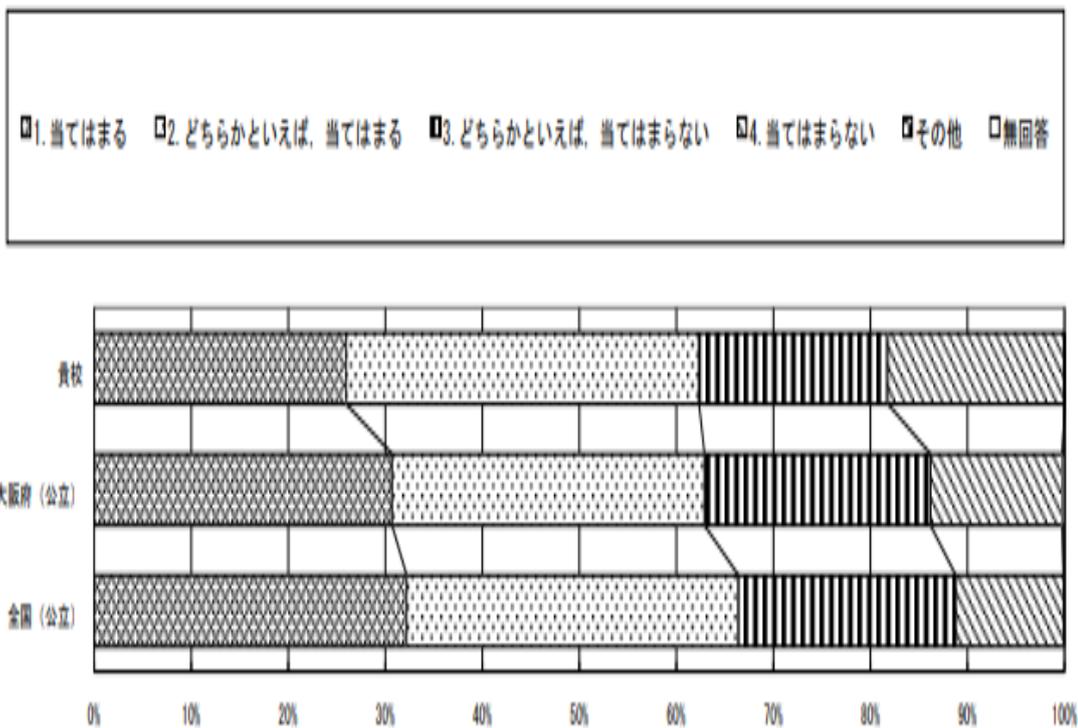
本校、大阪府、全国の比較



6 1. 理科の勉強は好きですか



本校、大阪府、全国の比較



全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より

質問毎の分析および所感

- 質問 2.3 同じくらいの時間に寝て、同じくらいの時間に起きている生徒が 80-90%である。本校が探究型の学びを重視していることもあり夜遅くまで調べ学習をしていたり単元テストの学習をしているという声が他のアンケートなどで散見され、教務部を中心に課題や単元テストが一定期間に集中しないように調整をした結果、この質問のポイントが向上した。

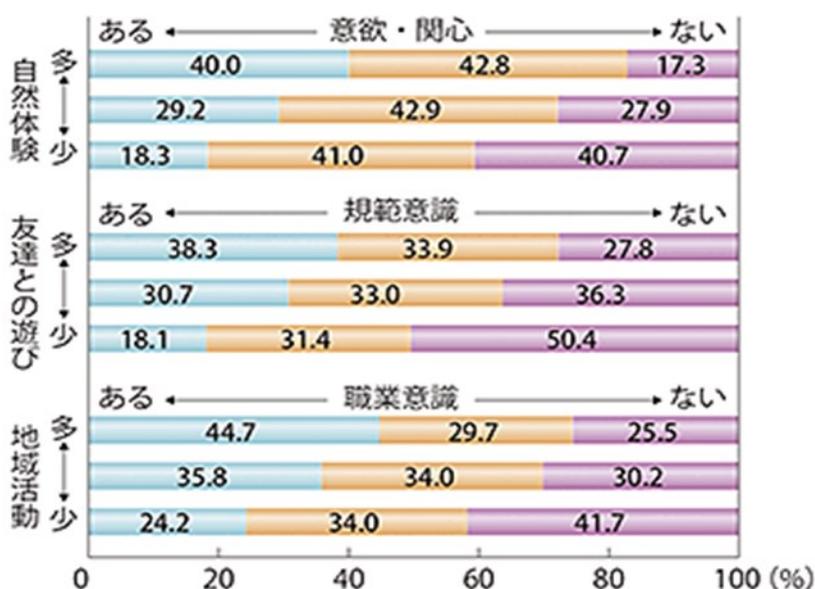
- 質問 10.11 やると決めたことをやり遂げるようにしているか、失敗を恐れずに挑戦しているか、という項目について、令和3年度よりも高い数値とはなったが、全国平均、大阪府平均から低い状態は昨年度と同様であった。全国大会を目指すような運動系の課外活動がないこと、持久走・マラソン大会のような学校行事が少なかったこと（持久走は調査後の令和4年の冬から実施）、乗り越えることができるかできないかわからないような高いハードル設定ができていない可能性があること、などがあり、非認知能力であるグリット（やりぬく力）やレジリエンス（困難から回復する力）が低い可能性がある。また非認知能力の養成に影響すると言われている、自然体験、地域活動が全国平均よりも低いことも影響している可能性がある。この点は後述する。

- 質問 17.46 本校生徒の特長として異なる意見に対する受容性、寛容性は大きく、昨年度に続いて全国、大阪府平均を大きく上回った。また互いの意見のよさを活かして解決方法を決めてるという項目も数値が高かった。グループでの探究、議論、発表、学級活動などを日常的にしており多様な意見に接する機会が多く、この数値が高くなっていることが考えられる。

- 質問 24.26 蔵書数が多い家庭の生徒が多く、生徒自身も読書が好きなのが多い。

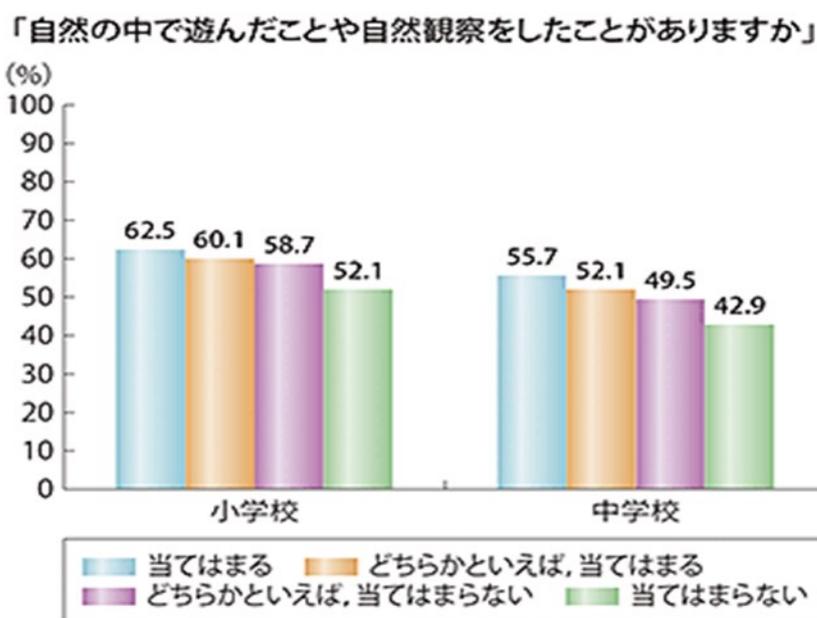
- 質問 27.29 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあるか、地域の行事に参加しているか、の項目で全国平均を下回った。本校の生徒は都市部にすんでいる生徒が多く、自然が少なかったり、地域活動や祭りなどへの参加機会が少ない可能性がある。自然体験や地域活動をとおして自然に触れたり、異年齢の大人、子どもに接することは大人になってからの非認知能力に影響するというデータが国立青少年教育振興機構の調査で明らかになっている。また自然体験は理科の正答率にも影響するというデータが同機構から発表されている。（1-3-36 図、1-3-37 図、表 1）家庭で自然体験、地域活動をしていない場合、学校でのそれらの活動で補うことができるのかどうか、検証が必要と思われる。本年度は中学校1年生で里山のキャンプ場、中学校2年生で海のキャンプ場で宿泊研修を実施し、探究型の授業や課外活動で地域行事に参加したりしている。

第1-3-36図 子どもの頃の体験と大人になってからの意欲・関心等との関係



(出典) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 (2011)「子どもの体験活動の実態に関する調査研究 (平成22年度調査)」

第1-3-37図 自然体験と理科の正答率 (平成24年度)



(出典) 文部科学省中央教育審議会「今後の青少年の体験活動の推進について (答申)」(平成25年1月25日)
(注) 平成24年度全国学力・学習状況調査から作成されている。

(表 1) 年齢期別「体験の力」との関係がみられる体験

体験の力	小学校前	小学校低学年	小学校高学年	中学校
自尊感情			地域活動	地域活動 家族行事
共生感		友達との遊び 動植物との関わり	地域活動	自然体験 地域活動 家族行事
意欲・関心		友達との遊び	自然体験	自然体験 地域活動
規範意識	友達との遊び	友達との遊び 動植物との関わり 家族行事	友達との遊び 家事手伝い	家族行事 家事手伝い
職業意識	友達との遊び	友達との遊び 動植物との関わり 家族行事		家族行事 家事手伝い
人間関係能力	自然体験	友達との遊び 動植物との関わり 家事手伝い	地域活動	友達との遊び 地域活動 家族行事 家事手伝い
文化的作法・教養		動植物との関わり		地域活動 家族行事 家事手伝い

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 (2010 (平成 22) 年調査より)

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/62/

○質問 32.37 授業では毎日 ICT 機器を使用しており、過半数の生徒が 1 日で 2 時間以上、ICT 機器を勉強のために使用している。ICT 機器の操作に習熟している生徒が多く、学習に効果的に使用している。その反面、PC を使っている時間が長く、本当に学習しているのか、単なる作業に陥っていないか、細かく検証していく必要があると感じている教員や保護者も多い。

○質問 49. 53. 61 英語と数学の勉強は好きと答えた生徒は昨年度よりも高い数値となっており、全国・大阪府平均よりも高くなっている。一方で理科の勉強が好きと答えた生徒は全国・大阪府平均を若干下回っている。この項目に関してはなぜ、数値が低くなっているのか検証していく必要がある。

全体をとおして

○全体をとおして、英語、数学、理科の学力に関しては順調に伸長していることが認められる。

○その一方で、非認知能力の分野である、最後までやり遂げる力、失敗を恐れなくて挑戦する、などの項目で昨年度に引き続き全国・大阪府平均を下回った。同様に自然体験、地域活動についても経験が少なく、自然体験、地域活動が少ないから非認知能力が低くでているのか、その他の要因が影響しているのか、引き続き注視していく必要がある。またそれが影響しているとして、学校での自然体験、地域活動によって家庭でのそれらの体験の不足を補えるのかどうかについても検証が必要であると考えられる。

○ICT 機器の活用は積極的に行っており生徒は学習に有効に活用している。その一方で ICT 機器に頼りすぎること逆に学習の阻害要因となっていないかどうか、作業過多になっていないか、注視していく必要がある。

以上